

JAわかやま 紀の里地域 総代懇談会

支店だより

News from branch offices



紀の里の各地域では、季節ごとに地域性を活かした、当地ならではの催し物が開かれています。今月も、各地からの話題をお伝えします。



「紀の里地域総代懇談会」を開催

紀の里地域本部は6月4日、総代懇談会を紀の川市の粉河ふるさとセンターで開催しました。総代121人と岩上副組合長をはじめ理事・監事、紀の里地域本部長と副本部長・部長・支店長が出席し、令和6年度決算結果と令和7年度事業計画、第1回通常総代会議案について報告しました。

中山地域本部長は「組合員の皆様と共に持続可能な農業、管内の農業振興に向けて



しっかり貢献できるよう取り組んで参ります」と挨拶を述べました。



桃山支店

あら川の桃出荷はじまる

6月11日、西部流通センターにて「あら川の桃」のトップバターとして早生桃「はなよめ」の出荷目揃え会が開催し、桃山管内の生産者が参加されました。

近年は温暖化による異常気象が続き、桃づくりが難しくなっています。JAも生産者の皆様とともに桃の安定的な高品質生産と有利販売に取り組んでいきます。

生産者の皆様におかれましては、暑い中での収穫作業は大変であると存じますが、水分補給等、お身体には十分気を付けてください。



打田支店

水稻肥料の引き渡し



打田支店では5月10日に中宮農経済センターにて水稻肥料の引き渡しを行いました。当日は天候にも恵まれ、多くの組合員さんが引き取りに来られました。

これから水稻シーズンが本格化し、猛暑が続く毎日ですが、熱中症等にお気を付けてください。





粉河支店 野菜苗の植え付け体験

5月12日に粉河保育園にて、園児の皆さんと東営農経済センターの職員と一緒に野菜苗を植えました。

初めに営農指導員より植え付けにあたり、「これは何の野菜の苗かわかるかな?」と聞いたところ、園児から大きな声できゅうりやミニトマトなど、野菜の名前を答えてくれました。

その後、園児の皆さんは真剣に植え付けをし、野菜が大きく育つようにジョウロで水をあげました。



貴志川支店 中貴志小学校糎まき体験

中貴志小学校では、毎年5年生の生徒たちが稲作に関する学習活動を行っています。

5月26日、47名の生徒たちが糎まき体験をしました。糎種を初めて触れる生徒が多く、糎を剥いて観察したり興味津々でした。糎まきを終えた後に感想を伺ってみると、生徒たちからは「機械で出来るのに手作業で行うと、しんどかった。」「昔は機械がなかったのに、昔の人は手作業で農作業を行っていたのはすごい!」「初めての糎まきは楽しかった!」などの感想を聞くことが出来ました。



那賀支店 南高梅の「目揃え会」開催

5月30日、東部流通センターにて「南高梅の目揃え会」が開催されました。

南高梅は果肉がやわらかく風味が良いのが特徴で、地域を代表する特産品です。

今年は「成熟が平年よりやや遅れている」ことを報告し、部会長からは「一粒一粒をしっかりと大きく育てて収穫を」との呼びかけがありました。



岩出支店 ゴミゼロ運動の開催

5月30日、岩出支店にてゴミゼロ運動を実施しました。

今年は26名のかがやき部会員のご協力のもと、支店周りりと北と南に別れて清掃活動を行いました。

普段ゴミを意識して歩くことが少く、意識して歩くとこんなにも多くのゴミがある事に驚きました。

これからも、ゴミゼロ運動だけでなく様々な地域貢献活動に取り組んでいきます。

最新の農作業情報は
ホームページからご覧になれます



【組合員様専用ページを見るには】

インターネットで以下のアドレスを入力
<https://members.ja-kinosato.or.jp/>

または
JAわかやまホームページ▶組合員様専用ページ
右図と同じユーザー名とパスワードを入力して
ログインしてください。



水稲

● 防除

いもち病発生園では、トライフロアブル
1000倍(14日前/2回)を散布しましょう。

● 出穂直前の防除

・ ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノ
メイガ
トレボン乳剤……………1000倍
(14日前/3回)

● 紋枯病

モンカットフロアブル……………1000倍
(14日前/4回)

・ いもち病、穂枯病(ごま葉枯病菌)
ダブルカットフロアブル……………1000倍
(穂揃期まで/2回)

(穂揃期まで/2回)

散布の際には、展着剤(ネオエステリ
ン500倍など)を加用してください。
※トビイロウンカは海を越えて海外から
6月〜7月に飛来する害虫です。株元
で発生しているため出穂直前の防除は
株元まで薬剤が届くように丁寧に散布
してください。

・ 豆つぶ剤の場合
ワイドパンチ豆つぶ……………250g/10a
(35日前/1回)

● 中干し(田植え約35日・株が18本程度
分けつした時期を目安に始める)
土表面が軽くひび割れる程度
(7日間目安)に中干しを行って
ください。中干しでの土壌中のガ
ス交換によりリン酸・カリの吸収
が促進され根の活力が増し、倒伏
軽減になります。

● 除草対策

基本防除で抑え切れなかった雑
草には、中干し初期にクリンチャー
バスME液剤(1ℓ/10a水100ℓ)を
散布してください。
また、カメムシ対策として圃場
周辺の除草は出穂期の2〜3週間
前と出穂期の2回を目安に行いま
しょう。

● 穂肥施肥

元肥に燐加安44号など、追肥が必
要な普通栽培の場合は出穂25日前
と出穂15日前を目安にそれぞれ太
閥を20kg/10a施用してください。
※キヌヒカリの穂肥施用の時期
は、7/15と7/25が目安で
す。それぞれの品種の出穂期は
「令和7年度 水稲栽培暦例」
でご確認ください。

野菜

秋冬葉菜類の10・11月出荷分は7月か
ら播種が始まります。種子や培土などの
資材の準備を行いましょう。
施設栽培では、8月上中旬からトマ
ト・キュウリなどの定植時期になりま
す。トマトの黄化葉巻病は、タバココナ
ジラミが、またキュウリの黄化えそ病
は、ミナミキイロアザミウマがこれらの
病気を媒介します。

青ネギ

● 育苗管理
・ 地床育苗では、前日に畝の芯までたっ
ぶりかん水し翌日播種してください。
・ 播種後は乾燥防止と降雨で土がたたか
れないようコモか寒冷紗の直掛けを行
い、発芽始めに取り除き寒冷紗のトン
ネル掛けに切り替えてください。

● 病害虫防除

表1を参考に散布してください。

イチゴ

近年、梅雨明け後の高温による育苗の
失敗が多く見受けられます。
失敗の要因は高温による培地温の上
りすぎで、炭そ病・疫病の発生を助長し
ています。
特に西日の当たる所からの発生が多く
見受けられます。

1回目のかん水時間は午前10時頃で培
土が乾き始めた時にかん水し、2回目は
午後3時頃に少量かん水し、夕方にポツ
ト内に水がたまらないように注意しま
しょう。

表1 トマト・ミニトマト・きゅうり・青ネギ・イチゴの防除例

病害虫名	薬剤名	倍 数	使用時期・使用方法
トマト・ミニトマト			
コナジラミ類、 アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤または プリロロン粒剤オメガ	1〜2g/株 2g/株	植穴土壌混和・定植時 株元散布・定植時
きゅうり			
アザミウマ類、 コナジラミ類、 アブラムシ類	モベントフロアブル アドマイヤー1粒剤または プリロロン粒剤オメガ	500倍 1〜2g/株 2g/株	50ml/株・株元灌注・育苗期後半〜定植当日 植穴土壌混和・定植時 株元散布・定植時
青ネギ			
病害虫名	薬剤名	倍 数	使用時期/使用回数
アザミウマ類	ハチハチ乳剤	1000倍	7日前/2回
	アグリメック	500〜1000倍	3日前/3回
	ディアナSC	2500〜5000倍	前日/2回
	ファインセーブフロアブル	1000倍〜2000倍	3日前/2回
軟腐病	スターナ水和剤	2000倍	7日前/3回
	バリダシン液剤5	500倍	前日/2回
イチゴ *梅雨時期に連続して降雨の場合は発生に注意			
病害虫名	薬剤名	倍 数	使用時期/使用回数
疫 病	ランマンフロアブル	500〜1000倍	50ml/株・灌注; 育苗期2回
	リドミルゴールドMZ	1000倍	50ml/株 ; 育苗期3回
	オラクル顆粒水和剤	2000〜3000倍	50ml/株・灌注; 育苗期3回
	レーバフロアブル	2000倍	育苗期2回

なお、寒冷紗で西日の遮光を行ってください。その際、風通しには留意しましょう。

防除は炭そ病に効果のある薬剤を中心に、疫病に効果がある薬剤も適宜散布しましょう。

葉かきは晴天の日に行い、葉かき後は防除しましょう。

●病害虫防除

表1を参考に散布してください。

柑橘

7月は果実の肥大期です。管理作業は先月から引き続き摘果が中心です。美味しいみかんを生産するには着果量に応じた摘果が必要となります。また、中晩柑類の八朔・不知火・清見などは、消費者に好まれる食味と階級づくりが大切です。かん水作業も含めて状況に応じた管理作業をしてください。

温州みかん

●粗摘果

粗摘果では樹冠内部やスソの部分、下垂した部分で肥大の悪い果実を中心に摘果を行ってください。早期に過度な摘果を行うと品質の低下を招きますので、着果量に応じた摘果を心掛けましょう。

●着果量に応じた摘果として

- ・着果が少なく、新梢が多い樹
- ・少しでも着果ストレスをかけるため、傷果などがあっても摘果は行わず、収穫前まで置いておきましょう。
- ・着果、新梢が程よく発生した樹
- ・着果ストレスにより、美味しいみかん

が生産される条件です。樹幹内部中心に摘果しましょう。あまり摘果しすぎると夏芽が発生することがあるので注意が必要です。

●着果が多く新梢が少ない樹

樹幹内部やスソなりの部分、下垂した部分で肥大の悪い果実を中心に摘果を行ってください。隔年結果の是正を行う場合は、樹冠上部や枝別に全摘果を行い、次年度の結果母枝を確保するようにしましょう。

中晩柑類

●粗摘果

大玉果生産のため、摘果は早期に終了するよう努めてください。摘果する果実は肥大の劣る内成り果・スソ成り果や奇形果・傷果・直花果などで、肥大が優れる5枚以上の有葉果を残すようにしましょう。なお摘果の時期が早く、かつ適正であれば夏芽の発生が見られません。反対に発生が見られないのであれば、摘果不足なので見直しが必要です。

●かん水

梅雨明け後は夏の乾燥期にはいりまです。7日以上乾燥が続く場合はかん水を行ってください。特に不知火は元々樹勢が弱く、乾燥が続くと樹勢の低下や酸高果の原因となるので、こまめにかん水を行いましょう。



表1. 防除例

品目	防除時期	対象病害虫	薬剤名	倍数	収穫前使用日数/回数
みかん 中晩柑類	8月上旬	ナシマルカイガラムシ 発生園	コルト顆粒水和剤	2000倍	前日/3回
レモン	8月中下旬	ミカンハダニ ミカンサビダニ 黒点病	ダニゲッターフロアブル ナティーポフロアブル	2000倍 1500倍	前日/1回 前日/3回

落葉果樹

●桃

●適期収穫

桃は若取りをするると小玉果で風味が劣り、過熟になると食味は良いですが果肉が柔らかく日持ち性が悪くなりますので、適熟採果を徹底しましょう。収穫の目安は、果実の赤道部を軽く触れるとわずかな弾力があり、指先で押さえても指跡がつかない程度の硬さです。



●柿

●摘果

大玉果生産には摘果が重要な作業となります。摘果は生理落果の終了する梅雨明け頃から7月下旬までに行います。効果を高めるためにも出来るだけ早期に行いましょう。

摘果する果実は、発育不良果・傷果・病害虫被害果・奇形果・遅れ花果等です。また、へたが傷ついている場合や、奇形になっている果実も摘果しましょう。摘果の程度は、結果母枝10~15cmにつき1果の着果量を基準としますが、樹冠下部の枝では日当たりが悪く肥大が劣るので、着果量を少なめにし、逆に樹冠外周部の日当たりの良い部分はやや多めに果実を残します。

●夏季剪定

夏季剪定を行うことにより樹冠内部まで日照が確保できるので、翌年の花芽形成が良くなります。また、薬剤散布の際に隅々まで薬剤がかかり、病害虫防除の効果が高くなります。

徒長枝などの日当たりを悪くしている枝を取り除き、来年結果母枝として使用できそうな枝を残すようにしましょう。

●着色促進と黒変果軽減

マルチを敷設することにより、着色促進の効果や黒変果軽減に加え、地温の上昇抑制や土壤水分の蒸散防止にもなります。

白黒マルチは、刀根早生で7月下旬、普通平核無で8月上旬に敷設してください。

●キウイフルーツ

摘果、新梢管理
小玉果・扁平果・スジ果を中心に仕上

表1 品目別防除例

*クビアカツヤカミキリの最重点防除時期です。すべての品種に一斉防除をおこないます

時期	品目	薬剤名	倍数	収穫前使用日数/回数
7月下旬 中期最重点防除	梅	ダントツ水溶剤	2000倍	前日/3回
	スモモ	アグロスリン水和剤	1000倍	前日/2回
	桃	アグロスリン水和剤	1000倍	前日/5回
8月中旬 後期最重点防除	梅	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	前日/3回
	スモモ			
	桃			

●かん水
キウイフルーツは葉からの蒸散量が多く乾燥に弱い。乾燥が1週間も続くと樹勢が低下します。そのため、乾燥が続く時はかん水を行ってください。また、乾燥防止のために樹冠下に敷きわらのマルチを行うのも効果的です。

●摘果
摘果を行ってください。着果基準は1平方メートル当たり25〜30果です。また、新梢が込み合い、棚下が暗くなると、果実品質に悪影響を及ぼします。次年度の母枝は残し、その他の徒長枝や重なりあっている枝は除去し、棚下に光がよく当たるよう新梢の整理を行いましょう。

品目	時期	対象病害虫	薬剤名	倍数	収穫前使用日数/回数
桃	晩生収穫前	シンクイムシ類	ロディー乳剤	1000倍	前日/5回
		ホモプシス腐敗病・灰星病	ベルコート水和剤	2000倍	前日/3回
柿	7月下旬〜8月上旬	落葉病・炭疽病	スコア顆粒水和剤	3000倍	前日/3回
		うどんこ病	キックオフ顆粒水和剤	2000倍	前日/3回
		カキノヘタムシガケムシ類・カメムシ類 アザミウマ類			
キウイフルーツ	7月中下旬	果実軟腐病 クワシロカイガラムシ	ダコニール 1000 コルト顆粒水和剤	1000倍 3000倍	60日/7回 前日/3回
いちじく	7月中旬	(展着剤) アザミウマ類 ハダニ類 黒かび病・そうか病	スカッシュ アクタラ顆粒水溶剤 パロックフロアブル トップジン M 水和剤	2000倍 2000倍 2000倍 1000倍	-/- 前日/2回 前日/1回 7日/5回
		梨	7月中下旬	ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類・カメムシ類 黒斑病・黒星病・輪紋病	アグロスリン水和剤 ナリア WDG
8月中下旬	シンクイムシ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 赤星病・黒星病 うどんこ病			ダントツ水溶剤 トリフミン水和剤	3000倍 2000倍
	大粒露地ぶどう	7月中旬(袋かけ後)	チャノキイロアザミウマ コガネムシ類 べと病・さび病	テッパン液剤 ムッシュボルドー DF クレフノン	2000倍 500倍 100倍
8月中旬(収穫中)			カメムシ類 コガネムシ類 べと病・さび病	ダントツ水溶剤 ムッシュボルドー DF クレフノン	2000倍 500倍 100倍

●いちじく
摘果、わき芽管理
摘果することにより、果実への養分転流を促進させ、果実の肥大・品質の向上、熟期の促進をはかります。方法は21〜22葉目のところで結果枝先端の未展葉部分を摘み取ります。生育不良などで22葉目まで展葉していない場合は摘果を行いません。

●着色管理
露地いちじくは、摘果を行うとわき芽が出てきます。わき芽が伸びすぎると下部の果実が影になり着色不良となるため、伸びる前に取り除くか、伸びすぎた場合は葉を1枚残して切除しましょう。

●かん水
適度な土壌水分を保つため、晴天が続く場合は、毎日午前中に少量ずつかん水を行ってください。

●葉ボタン
播種は、7月25日〜8月10日の間で伸びの悪い品種(初紅)から行います。



●果実の品質向上
果実の品質向上のために、収穫時期が近づく7月下旬に、葉の巻き込みや反射マルチの敷設を行います。

●収穫
露地のいちじくでは収穫が始まります。収穫は果実温度が上がっていない早朝に行い、熟度を確かめながら丁寧に採果しましょう。適熟の目安は、果実の重みで下垂し、耳たぶくらの硬さの果実ですが、8月の高温時には追熟が早いので、少し硬い状態で収穫してください。また、いちじくの白い樹液が皮膚に付くとかぶれやすいため長袖と薄手のビニール手袋等を使用して収穫してください。

表2. 品目別施肥例

品目	時期	施用量(10aあたり)
いちじく	7月中旬(追肥)	硫酸加里…………… 10kg
	8月中旬(追肥)	紀の里1号配合…………… 40kg
スモモ	7月収穫後(礼肥)	紀の里化成403…………… 40kg
梨	8月中旬(礼肥)	千代田化成 549
		または 未来508…………… 60kg

●ストック
年内に出荷する作型では、8月中旬より播種します。播種床はバスアミド微粒剤又は太陽熱などによる土壌消毒をしておきます。また、直播栽培を行う場合は播種床同様に土壌消毒を行ってください。処理期間はバスアミドで約2週間以上、太陽熱消毒で3週間から1ヶ月以上です。太陽熱消毒は天候に左右されるので注意してください。播種量は、100坪当たり240ml程度が必要です。シードテープ加工(直播栽培)の場合は、12cm間隔で3〜4粒を基本とします。土壌の塩類集積や肥料バランスの悪さは発芽揃いを不良にします。土壌分析による施肥診断をお勧めします。

●着色管理
果実の品質向上のために、収穫時期が近づく7月下旬に、葉の巻き込みや反射マルチの敷設を行います。

●収穫
露地のいちじくでは、摘果を行うとわき芽が出てきます。わき芽が伸びすぎると下部の果実が影になり着色不良となるため、伸びる前に取り除くか、伸びすぎた場合は葉を1枚残して切除しましょう。

(初紅↓晴姿SP ↓恋姿SP) 播種床・定植床の土壌消毒又は太陽熱消毒(黒腐れ病対策)はできるだけ早めに行いましょう。

直播栽培の場合、6〜7cm間隔で1粒シードテープ加工し、6〜7cmの6条播きを基本とします。播種後、種子が隠れる程度にバーク堆肥等で覆土後、発芽が出揃うまでは寒冷紗等で被覆、気温の上昇を防いでください。

なお、発芽後の多かん水による立ち枯れ病、根くち病の発生に注意してください。以後、草丈を十分に確保するため、適時かん水や追肥を行ってください。

病害虫名	薬剤名	倍数
立枯病(ピシウム菌)	ランマンフロアブル	2000倍
	オーソサイド水和剤80	600倍
黒腐病	バリダシン液剤5	800倍
根くち病	パレード20フロアブル	2000倍
	アフエツフロアブル	2000倍



金融

農業振興資金
金利キャンペーンのおしらせ

実施中の「農業振興資金金利キャンペーン」はお借りいただく方を対象に年0.6%（借入日より当初3年間）、保証料のご負担なしでご利用いただけます。

お借入のご相談がございましたらお近くのJA窓口、または、渉外担当者までお問い合わせください。

※お申込に際しては所定の審査がございます。
※審査の結果によってはご希望に沿えない場合もございますのであらかじめご了承ください。



購買

令和7年度9-2月期
肥料・農薬の予約書取りまとめ
実施中

購買部では、令和7年度9-2月期の肥料・農薬の予約取りまとめを行っています。

予約書のご提出がお済みでない方は、7月末までに各窓口へお忘れのないようご提出をお願いいたします。

予約値引きや各奨励の対象となるよう、ぜひ予約購入をお願いいたします。

また、7月末まで県産果汁愛飲運動を展開中です。県内産果実を使ったJOINジュースのお求めは各窓口まで。

詳しくは、各センター・事業所の購買までお問い合わせください。

販売

令和7年産 紀の里の桃・あらかわの桃販売中

令和7年産の紀の里の桃・あらかわの桃が販売されています。桃は6月中旬から8月中旬頃まで楽しむことができ、紀の里地域本部の各ファーマーズマーケット・直売所では桃のイベントを開催しています。

西部流通センター前のあらかわの桃特設直売所では期間限定で桃の直売所を開設し、美味しい桃を求めて長い行列ができています。桃のネット販売・宅配サービスも行っていますので、進物用としてぜひご利用ください。



営農

棚資材、いちじく誘引資材、防蛾灯への助成について

令和7年度農業振興支援制度の中で、紀の里地域本部独自支援として、生産販売戦略の着実な実践や省力化、スマート農業技術の導入による、「生産基盤の強化」と「農業所得の向上」に取り組むため、事業費の30%以内を助成しています。

記

- ①名称 紀の里地域独自支援 “果樹産地支援対策”
- ②支援対象(内容)及び助成額

支援対象	取組内容	助成額
果樹棚等の資材	・資材の設置に係る資材・工事費の助成	購入額(税抜)の30%以内
いちじくの誘引資材	・面積は1ヶ所当たり概ね2アール以上	
防虫・防蛾灯	・防虫、防蛾灯本体の助成 ・電気工事費は含まない	

- ③申請書類 申請書 ※事業の概要に園地記載誓約・同意書
※交付金受入指定口座記入
反社会勢力ではないことの表明・確約に関する同意
採択前着手届

※事業完了後は、精算書、支払証明書、事業完了写真を速やかにご提出ください。

◆申込締切日:令和7年8月29日(金)◆

提出先及びお問合せ先 各営農経済センター